

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300190
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム 三島の杜
所在地	愛媛県四国中央市上柏町202-1
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 12 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の南側には、法皇山脈がそびえ、北には瀬戸内海が一望できる場所に位置しており、常時、自然を感じながら穏やかな生活を送っています。「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに、一人一人の関わりを大切にして、人の痛みや喜びを自分のこととして感じられる感性を持って接しています。ご利用者様の意思を尊重し、家庭と同様にゆったりと伸びやかに過ごして頂けるに、家庭的な雰囲気作りを心がけています。看護師を2名配置しています。ご利用者様の健康管理に努め、現在の状態を維持することだけでなく、更に入居前より、心身の機能が向上できるようにスタッフ一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年3月に開設した1年目の事業所は、地域密着型介護老人福祉施設等に併設している。開設にあたり職員間で話し合い、「常に寄り添い、共に助け合い、笑顔で過ごす」という理念を作成している。理念には、事業所で普段の暮らしを継続できるよう地域住民や家族との交流を図り、利用者を尊重し、一人ひとりが役割を持って笑顔で過ごせるよう支援したいという思いが込められている。管理者と職員は地域に根ざした事業所でありたいと考え、準備段階から地域へ積極的に働きかけを行い、良好な関係を構築できるよう努めている。運営推進会議には地域行事の情報が寄せられ、利用者は多くの行事に参加している。また、専門職としての技能を活かし、地域住民の健康づくりにも貢献しながら交流を図っている。人から人へと関係を広げ、利用者の社会参加を支援しようとしている事業所である。また、系列の法人には在宅診療を行う診療所と総合病院を持ち、日常の健康管理から緊急時対応まで、安心できる医療連携体制が整っており、利用者や家族には安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム三島の杜

(ユニット名) りんどう

記入者(管理者)

氏 名 白川 美津子

評価完了日 H26 年 11 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所内に理念を掲示し、意識づけを行っている。 入居者一人一人の思いをお聞きし、ケアプランを立て実践している。	
			(外部評価) 法人の理念を踏まえ、「常に寄り添い、共に助け合い、笑顔で過ごす」という事業所独自の理念を職員間で話し合い作成している。理念には、日常の暮らしを継続できるよう、地域住民や家族との交流を図り、利用者を尊重し、一人ひとりが役割を持って笑顔で過ごせるよう支援したいという思いが込められている。職員は理念を大切に共有し、実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所にある善法寺や滝の宮神社、近所のスーパー等、散歩や買い物に出掛ける。秋祭りには、地区の太鼓台を招き、交流を図った。地区の民生委員の引率により、サロンの方が来所され、施設見学をされる。	
			(外部評価) 職員全員で地域密着型サービスの複合施設であることを認識し、地域との相互交流の機会を積極的に創ろうと努めている。事業所の交流広場を使い、管理者が講師となり地域住民を対象とした「貯筋体操」を開催するなど、複合施設を開放して、人の出入りがしやすい雰囲気づくりに尽力している。貯筋体操など行事の開催時には、職員が地道にチラシ配りから始め、少しでも多くの地域住民に参加協力してもらえるよう努めている。近所の寺の住職から結婚式があると知らせをもらい利用者と一緒に見に行くなど、着実な関係づくりを進めている。	地域密着型サービスの複合施設づくりを事業所の建設準備段階から推進し、積極的に地域住民との信頼関係が築けるよう努めている。管理者はさらに幼児との交流できる機会や地域の高齢者との交流の機会を持つことを考えており、実現でき地域との交流が広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 入居者の親族の方より、認知症の介護について相談があり、アドバイスを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、事業や行事報告、事故、ひやりはっとの 報告を行っている。事故やひやりはっとの状況についての質 問や改善案を参加メンバーから頂き、業務に取り入れている。 (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、自治会長、民生委員、 寺院住職、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催し ている。会議では、毎回利用者の状況や活動報告を行うほ か、事故・ひやりはっとの報告を行っている。参加者との意 見交換が活発に行われており、地区の独居高齢者と利用者の 交流の機会を持ちたいと参加者に依頼したり、参加者から地 区のサロンを事業所内で実施したいという要望が出るなど相 互交流の提案が出され、運営に反映できるよう努めている。	開設して短期間であるが、充実した運営推進会議が開 催されている。認知症の理解を広め、事業所を知って もらおうと同時に、地域との協力関係を構築するための 話し合いの場となるよう、より多くの地域住民に会議 に参加してもらえるよう働きかけていくことを期待し たい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加して頂き、 事業所の実情や取組みを伝える。 加算の届け出など不明なことがあれば、市高齢介護課へ相談 に伺っている。 (外部評価) 事業所の開設にあたり、市担当者から指導や助言をもらっ た。運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、 情報交換をしている。管理者は市が実施している出前講座を 事業所で開催したり、地域包括支援センターの行事や会議等 にも積極的に参加したいと考えている。また、職員がキャラ バンメイトの講習を受講し、認知症サポーター養成に協力で きるよう準備をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の研修を受けた職員が勉強会で報告し、身体拘束の 内容や身体拘束をしてはならないということの意識付けを行 い取り組んでいる。開設当初は情緒不安定な方々が多く見ら れ、ユニットの入り口のロックを行っていたが、様子を見な がらドアをオープンにしている。 (外部評価) 法人では身体拘束のみでなく、言葉の拘束も行わないケアが 実践できるよう努めている。外部研修に積極的に参加して受 講者が伝達講習をしたり、内部研修の年間計画に拘束などの テーマを取り入れ、職員が理解して実践できるよう努めてい る。定期的にユニット間の職員異動があり、交流をすること で職員間の協力体制ができてきており、利用者が自由に行き 来できるよう見守りをして対応している。利用者の安全面を 考え、夜間のみセンサーマットを使用する場合には、家族に 説明し同意を得た上で使用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修を受けた職員が、勉強会で報告し周知している。不適切な言葉掛けがあれば、職員間で注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者1名の方が、成年後見制度の保佐人を弁護士に依頼している。毎月弁護士が来訪しており、職員がそれぞれ制度について学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前の面接にて事業所の説明を行い、不安の軽減に努めている。契約時には、重要事項説明書を用いてご利用者様・ご家族様にわかりやすく説明している。加算追加時には、文書を作成し、明確に料金の提示を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当者会議や面会時、家族会開催時などの機会を利用し、ご家族様やご利用者様のご意見・ご要望をお聞きしている。アンケートなどを利用し、直接伝えにくい場合にも対応している。	
			(外部評価) 管理者は家族との信頼関係を築くことが重要であると考えており、積極的に家族の意見を聞くよう努めている。初めて開催した家族会にはほとんどの家族が参加し、芋炊きを囲んで和やかに交流をしたほか、同時に介護用品の紹介や家族の健康相談会も開催し好評を得ている。また、アンケート調査も実施して家族の意見や要望を聞いて運営に反映するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会議では、管理職と職員の意見交換を行っている。随時、意見のある職員の意見や提案を聞き対応している。 (外部評価) 毎月の職員会で職員は意見を出し合える環境づくりをしている。事業所への要望や悩み相談については、管理者が個別に相談に応じている。解決が難しい場合には管理者から施設長に相談し、対応している。定期的にユニット間で職員が異動し、利用者全員を把握できるように努めており、職員間の協力体制もできてきている。新入職員は分からないことがある場合には、日常的に先輩職員に聞くことができています。また、複合施設には感染対策予防委員会や給食委員会などがあり、職員は各委員会で話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人としては、人事考課制度を取り入れているが、まだ開設して1年も経っておらず、現状では人事考課制度を取り入れていない。資格取得後は、資格手当を支給している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会東予地区の研修会に参加している。毎月、職員が交代で参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内GH交流会を設立し、管理者・職員が参加している。また、相互研修により、互いの施設を知り、情報交換を行い、日々の業務に生かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの生活を継続して施設生活が送れるように、本人の生活ぶりや嗜好などを把握し、入所後の不安を取り除けるように対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の思いを理解した上で、家族の意見や立場を受け止め、審判的にならないように配慮し、家族の気持ちを受け止めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み者の状態によっては、GHが適切でないと思われた場合は、他のサービスも視野に入れ、必要によっては他のサービスを紹介する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作りや外食を職員も一緒に行い、空間を共有することで連帯感を持つ。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が面会しやすい雰囲気作りに努めている。家族がユニット内で溶け込み、くつろぎの時間を過ごされている。毎月おたよりにて遠方の家族にも、日々の生活ぶりを知って頂き、身近に感じて頂けるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前行かれたことのある思い出の神社にお連れし、落ち着いた時間を過ごされる。しかし、開設後7ヶ月程度である為、思い出深い場所に行くことが逆効果にならないか思案している。知人や家族の面会は積極的に受け入れている。遠方などで面会に度々来れないご家族とは電話でやり取りして頂いている。 (外部評価) 毎月職員は利用者の日々の様子を便りに書いて家族に送付しており、遠方の家族にも喜ばれている。入居当初から帰宅願望のある利用者には、思い出深い神社に付き添ってお参りしたり、家族に来てもらったりすることで、落ち着きを取り戻している。入居前一人暮らしをしていた利用者には、近所の人が気にかけて訪れてくれ利用者に喜ばれている。職員は利用者が馴染みの関係をなるべく維持することで、穏やかに過ごせるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 席の配慮や不穏時には、職員が間に入り、必要に応じて距離をとるなどし、人間関係悪化防止に努めている。 時間の経過に伴い、互いに受け止め、トラブルのない穏やかな生活が送れている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後、関連施設に入所した方1名。契約終了後も、ご家族と連絡を取り合いながら、病院から関連施設へ入所されるお手伝いを行う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思の訴えが難しいものに対して、表情や態度などから心理を読み取り、ご利用者様の気持ちを把握するように努めている。 (外部評価) 職員は利用者との会話に耳を傾け、話しをよく聴くよう心がけている。テレビの前にあるソファに職員が隣り合わせて腰を掛けてゆっくり話を聞いたり、夜勤帯にスタッフルームを訪れた利用者の話を聞いたりしている。思いや意向を伝えることが困難な利用者には、家族から情報を聞いたり表情や様子を見て思いをくみ取るよう努めている。また、利用者の不安な顔や態度などを察知した場合には、気分転換を図るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前面接時、センター方式を利用し、ご利用者様の生活歴や環境などを把握している。入居後も、ご利用者様やご家族様とのやり取りの中から情報を取り入れている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会でカンファレンスを実施し、個人個人の生活形態を話し合い、ご利用者様の有する能力について情報交換している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日常生活の中で、ご利用者様の思いや意見をお聞きしたり、様子や表情から読み取っている。ご家族様の面会や電話のやり取りなどから思いや意見を把握している。 毎月、カンファレンスを持ち、一人一人に応じた介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者や家族の意向を確認した上で、利用者毎の担当職員と計画作成担当者が相談しながら介護計画を作成している。毎月ユニット毎にケースカンファレンスを行い、職員が話し合いをしている。通常は6か月に1回介護計画を更新しているほか、状態の変化がある場合には、その都度見直しをしている。更新時は家族の面会に合わせてサービス担当者会議を実施し、家族の意見を取り入れ修正するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別ケースに記録しているが、実施した内容にとどまっていることが多い。その為、月1回の職員会で個人の情報を共有して介護計画につなげている。普段と違うことがあれば、ミーティングノートを活用し、情報の共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 協力機関の病院受診は、職員が付き添い介助している。併設しているデイサービスと合同でレクリエーションを行うこともある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地区の秋祭りでは、太鼓台が来て、地域の方々とふれあいを持つことが出来た。運営推進会議では、推進メンバーとご利用者様が一緒に体操を行った。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関がかかりつけ医のご利用者様が多い。しかし、 (眼科・耳鼻科など) ご利用者様ご希望される病院には継 続して受診して頂いている。 (外部評価) 系列法人が病院を経営しているため医療連携体制が整ってお り、入所時に希望して協力医をかかりつけ医にする利用者が 多い。眼科や耳鼻科などの専門医の受診は、家族の協力を得 ている。月2回訪問診療があり、日常的な健康管理をするほ か、急変時には事業所の看護師と医療連携が取れ、利用者や 家族は安心感がある。また、歯科医の往診もあり、口腔ケア の指導や治療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 2名の看護師が勤務している。日々、気づいたことや変化が あれば、ただちに看護師に伝え相談している。また、 看護師より診察内容や病状から介護職員へ適切に指示が出さ れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に施設での状態や認知面について詳しく情報提供をし ている。定期的に病院に行き、状態把握に努めている。病院 の地域連携室と連携を取りながら家族も含め、 カンファレンスを行い、早期退院に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関する指針を、入居時に説明し理解を得ている。現 状では、その様なケースはない。 (外部評価) 「ターミナルケア指針」を作成して、事業所として対応でき る内容を利用者や家族に説明して意向を確認しているが、今 のところ考えていないと答える家族が多い。看取りを実施し ていく予定であるが、事業所は開設して1年目のため対象の 利用者はいない。今後、看取りが必要となった場合には協力 医と医療連携を図りながら、事業所の力量も考慮しながら支 援に取り組む予定である。	介護経験の浅い職員が多く、看取りへの漠然としたイ メージを持っている。法人内の他の事業所では看取り 経験があるため、職員の体験交流を図りながら、知識 の向上や不安の解消など職員への具体的な教育をして いくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し、周知している。施設内研修で消防職員による救急救命についての講習を受けた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は施設全体で年2回実施している。夜間想定で1回実施している。 (外部評価) 複合施設が合同で年2回消防署の指導のもと、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施する予定である。開設1年目のため、初めての訓練では夜間を想定して実際に非常ベルを鳴らした避難誘導を行った。消防署から初めての訓練には職員の動きが良かったとの評価を受けている。複合施設のため夜間帯にも相互の協力を得られる職員はいるが、動揺する利用者への対応も考え、管理者は今後は広く協力者を作りたいと考えている。地区の消防団員にも呼びかけ、訓練に参加してもらえよう働きかける予定である。また、事業所独自で食料などの備蓄品を用意している。	夜間などの災害発生時には、利用者の避難誘導に一人でも多くの協力者が駆けつけることが被害の防止に繋がるため、管理者は緊急時に備え広く協力者を求めたいと考えている。今後は、家族や地域住民などと一緒に避難訓練を実施し協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の尊厳やプライバシーを配慮した声かけを心がけている。 (外部評価) 職員は丁寧な声かけをするよう心がけ、利用者の自尊心や恥辱心に配慮した支援に努めている。トイレ誘導時は、周囲に聞こえないよう耳元で声をかけをしている。入浴時や更衣時には、利用者のプライバシーを確保してケアをするよう気をつけている。また、利用者と呼ぶ時は、名字にさんを付けて呼ぶ取り決めをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思決定が困難な時は、選択できるような声かけをしたり、表情や動作等から推察したりしている。押し付けにならないように声かけに留意し、無理強いしないようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 施設としての1日の流れはあるが、個々の体調や意向を尊重し、一人一人のペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の介助のもと馴染みの美容室に出向き、カラーリングしている。月1回の訪問理容師により、ご利用者様の希望に添ったヘアースタイルにしている。手持ちのクリームや化粧水を使い美容に心がけている。入浴後などの髪の毛の分け方やヘアーピンの留め方などご利用者様の好みを取り入れている。衣装選びは、なるべく自分でして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 開設当初で十分に体制も整っていない為、委託業者による食事提供を実施している。行事食などは、職員、ご利用者様と共に作り召し上がり楽しまれている。 (外部評価) 複合施設の1階の厨房で、委託業者がおかずなどの調理をしている。ご飯は各ユニットで炊飯している。おやつは利用者と職員が協力して、なるべく手作りするよう心がけており、行事食や誕生日のケーキは利用者と一緒に手作りしている。利用者と職員は一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気です食事をしている。嚥下の難しい利用者には、食形態の工夫をして食べやすいよう工夫している。敷地内の空き地に畑を造る計画があり、栽培した野菜などの食材を使い、ユニット毎に調理することも検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立があるので、バランスは取れていると思われる。カロリー制限のある方は、ご飯を計算している。1日の摂取量をチェックシートに記入している。ご利用者様の状態に合わせ、お粥や刻み、とろみをつけるなど工夫している。水分摂取の訴えのない方は、定時に飲水して頂いている。入浴後等に、必要に応じてハイポトニック飲料などを飲んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の診察を受け、口腔ケアの指導を受ける。毎食後、歯磨きの声かけを行い、出来ない方には、介助している。出来る方にも仕上げ磨きを実施している。週1回、歯ブラシとコップの消毒、義歯の洗浄を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握し、長時間の訴えがない場合でも、職員が声かけし、トイレで失敗なく排泄できるように支援している。個々の排泄リズムを理解し、トイレの誘導・声かけを行っている。 (外部評価) 日中には利用者は布パンツを使用し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。失敗することが無いよう定期的にトイレに誘導している。入院中はオムツを使用していた利用者も体調が回復して、今では自力でトイレに行けるようになった事例もある。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、自力で排泄できるよう支援している。また、便秘予防のため繊維質のものをおやつに取り入れ、スムーズに排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳酸菌や食物繊維を含むおやつを出来るだけ提供し、なるべく薬に頼らないように努力している。水分補給や体操、散歩などの運動や腹部マッサージなどを実施している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴を実施している。体調や入浴拒否のある方には、曜日を変更して対応している。お湯の温度や浴槽に浸かる時間などは、ご利用者様の希望を取り入れるように努力している。 (外部評価) 週3回入浴ができるよう支援をしている。浴室には特殊浴槽が設置され、浴槽をまたがず入浴ができる構造となっており、安心安全に入浴することができる。湯は一人ずつ入れ替えるため、利用者の好む温度や時間帯に入浴することができる。また、入浴が苦手な利用者には毎日声かけをして、入りたい日に入ってもらおうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご利用者様個々の生活習慣を大切にし、ご利用者様の意思を確認し、ベッドへの誘導を行っている。夕方より不穏になられる方には、付き添い、寄り添って不安を取り除き安心して眠れるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診により、薬の変更があれば、申し送りノートに記載し、周知している。作用や副作用などは、薬局からの薬剤情報を健康チェックファイルに個々に綴じている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意なことや楽しみを把握し、その人に応じた支援を行っている。歌を好む方は、職員と共に歌ったり、テレビのスポーツ観戦を一緒に楽しんでいる。また、裁縫の得意な方には、牛乳パックを使った椅子を一緒に作っている。他にも編み物などを一緒に楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設周辺の散歩は、ご利用者様のご希望に応じて適宜実施している。季節感を感じられるような場所に出向いたりご利用者様のご要望に応じて外食も行っている。ご家族様のご協力のもと、墓参りにも出掛けている。 (外部評価) 天気の良い日には広い敷地内や近くの寺院の境内まで散歩している。バラや紫陽花など季節の花をドライブがてら見に行ったり、ショッピングモールに買い物に出かけたりしている。3～4人の利用者でカラオケボックスに出かけ、カラオケを楽しんでいる。また、系列法人の病院で催されるコンサート鑑賞に出かけたり、屋上にあるレストランで外食を楽しむこともある。職員は車いすも使用できる福祉車輛を活用し、利用者全員で外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に、管理者が小口の預かり金を管理している。毎月、預かり金の出納表をご家族に送付し報告している。小額の手持ち金を管理している方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 送って来て頂いた手紙などは、各居室に飾らせて頂いている。家族等との電話は職員が取り次ぎ、ご利用者様とやり取りがしやすい環境を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花瓶に季節の花などをを挿し、リビングに置いている。季節感を感じられるような壁面を一緒に作成し飾っている。窓から外の風景を眺められるように考慮し、ソファを配置している。 (外部評価) 共用スペースにはオープンキッチンがあり、炊きたてのご飯の匂いが漂ってくる。テーブル席やソファ席など、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。また、食卓には職員が持参した季節の花が飾られ、壁には行事の写真や利用者と職員が一緒に作成した作品が美しく飾りつけられ、利用者や来訪者の目を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースには、くつろげる場所を2箇所設け、状況に応じて居場所の変更が出来るような環境を整えている。また、居室でゆっくり過ごされたい時は、居室でくつろいで頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族写真や人形、家族の形見の品などを部屋に置き、家庭と同様の空間作りに努めている。 (外部評価) 窓は大きくどの居室からも見晴らしが良く外の景色を眺めることができ、居室にしながら季節を感じることができる。居室にはエアコン、電動ベッド、チェスト、洗面台が備え付けられている。自宅から位牌や可愛がっていた抱き人形、賞状や家族写真を飾っている利用者があるなど、一人ひとりに合わせ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室がわかりやすいように名前を表示したり、目印をつけている。夜間は明るさに留意している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300190
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム 三島の杜
所在地	愛媛県四国中央市上柏町202-1
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 12 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の南側には、法皇山脈がそびえ、北には瀬戸内海が一望できる場所に位置しており、常時、自然を感じながら穏やかな生活を送っています。「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに、一人一人の関わりを大切にして、人の痛みや喜びを自分のこととして感じられる感性を持って接しています。ご利用者様の意思を尊重し、家庭と同様にゆったりと伸びやかに過ごして頂けるに、家庭的な雰囲気作りを心がけています。看護師を2名配置しています。ご利用者様の健康管理に努め、現在の状態を維持することだけでなく、更に入居前より、心身の機能が向上できるようにスタッフ一同取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年3月に開設した1年目の事業所は、地域密着型介護老人福祉施設等に併設している。開設にあたり職員間で話し合い、「常に寄り添い、共に助け合い、笑顔で過ごす」という理念を作成している。理念には、事業所で普段の暮らしを継続できるよう地域住民や家族との交流を図り、利用者を尊重し、一人ひとりが役割を持って笑顔で過ごせるよう支援したいという思いが込められている。管理者と職員は地域に根ざした事業所でありたいと考え、準備段階から地域へ積極的に働きかけを行い、良好な関係を構築できるよう努めている。運営推進会議には地域行事の情報が寄せられ、利用者は多くの行事に参加している。また、専門職としての技能を活かし、地域住民の健康づくりにも貢献しながら交流を図っている。人から人へと関係を広げ、利用者の社会参加を支援しようとしている事業所である。また、系列の法人には在宅診療を行う診療所と総合病院を持ち、日常の健康管理から緊急時対応まで、安心できる医療連携体制が整っており、利用者や家族には安心感がある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム三島の杜

(ユニット名) あじさい

記入者(管理者)

氏 名 白川 美津子

評価完了日 H26 年 11 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所内に理念を掲示し、意識づけを行っている。 入居者一人一人の思いをお聞きし、ケアプランを立て実践している。	
			(外部評価) 法人の理念を踏まえ、「常に寄り添い、共に助け合い、笑顔で過ごす」という事業所独自の理念を職員間で話し合い作成している。理念には、日常の暮らしを継続できるよう、地域住民や家族との交流を図り、利用者を尊重し、一人ひとりが役割を持って笑顔で過ごせるよう支援したいという思いが込められている。職員は理念を大切に共有し、実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所にある善法寺や滝の宮神社、近所のスーパー等、散歩や買い物に出掛ける。秋祭りには、地区の太鼓台を招き、交流を図った。地区の民生委員の引率により、サロンの方が来所され、施設見学をされる。	
			(外部評価) 職員全員で地域密着型サービスの複合施設であることを認識し、地域との相互交流の機会を積極的に創ろうと努めている。事業所の交流広場を使い、管理者が講師となり地域住民を対象とした「貯筋体操」を開催するなど、複合施設を開放して、人の出入りがしやすい雰囲気づくりに尽力している。貯筋体操など行事の開催時には、職員が地道にチラシ配りから始め、少しでも多くの地域住民に参加協力してもらえよう努めている。近所の寺の住職から結婚式があると知らせをもらい利用者と一緒に見に行くなど、着実な関係づくりを進めている。	地域密着型サービスの複合施設づくりを事業所の建設準備段階から推進し、積極的に地域住民との信頼関係が築けるよう努めている。管理者はさらに幼児との交流できる機会や地域の高齢者との交流の機会を持つことを考えており、実現でき地域との交流が広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 入居者の親族の方より、認知症の介護について相談があり、アドバイスを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、事業や行事報告、事故、ひやりはっとの 報告を行っている。事故やひやりはっとの状況についての質 問や改善案を参加メンバーから頂き、業務に取り入れている。 (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、自治会長、民生委員、 寺院住職、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催し ている。会議では、毎回利用者の状況や活動報告を行うほ か、事故・ひやりはっとの報告を行っている。参加者との意 見交換が活発に行われており、地区の独居高齢者と利用者の 交流の機会を持ちたいと参加者に依頼したり、参加者から地 区のサロンを事業所内で実施したいという要望が出るなど相 互交流の提案が出され、運営に反映できるよう努めている。	開設して短期間であるが、充実した運営推進会議が開 催されている。認知症の理解を広め、事業所を知って もらおうと同時に、地域との協力関係を構築するための 話し合いの場となるよう、より多くの地域住民に会議 に参加してもらえるよう働きかけていくことを期待し たい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加して頂き、 事業所の実情や取組みを伝える。 加算の届け出など不明なことがあれば、市高齢介護課へ相談 に伺っている。 (外部評価) 事業所の開設にあたり、市担当者から指導や助言をもらっ た。運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、 情報交換をしている。管理者は市が実施している出前講座を 事業所で開催したり、地域包括支援センターの行事や会議等 にも積極的に参加したいと考えている。また、職員がキャラ バンメイトの講習を受講し、認知症サポーター養成に協力で きるよう準備をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の研修を受けた職員が勉強会で報告し、身体拘束の 内容や身体拘束をしてはならないということの意識付けを行 い取り組んでいる。開設当初は情緒不安定な方々が多く見ら れ、ユニットの入り口のロックを行っていたが、様子を見な がらドアをオープンにしている。 (外部評価) 法人では身体拘束のみでなく、言葉の拘束も行わないケアが 実践できるよう努めている。外部研修に積極的に参加して受 講者が伝達講習をしたり、内部研修の年間計画に拘束などの テーマを取り入れ、職員が理解して実践できるよう努めてい る。定期的にユニット間の職員異動があり、交流をすること で職員間の協力体制ができてきており、利用者が自由に行き 来できるよう見守りをして対応している。利用者の安全面を 考え、夜間のみセンサーマットを使用する場合には、家族に 説明し同意を得た上で使用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修を受けた職員が、勉強会で報告し周知している。不適切な言葉掛けがあれば、職員間で注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居者1名の方が、成年後見制度の保佐人を弁護士に依頼している。毎月弁護士が来訪しており、職員がそれぞれ制度について学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前の面接にて事業所の説明を行い、不安の軽減に努めている。契約時には、重要事項説明書を用いてご利用者様・ご家族様にわかりやすく説明している。加算追加時には、文書を作成し、明確に料金の提示を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当者会議や面会時、家族会開催時などの機会を利用し、ご家族様やご利用者様のご意見・ご要望をお聞きしている。アンケートなどを利用し、直接伝えにくい場合にも対応している。	
			(外部評価) 管理者は家族との信頼関係を築くことが重要であると考えており、積極的に家族の意見を聞くよう努めている。初めて開催した家族会にはほとんどの家族が参加し、芋炊きを囲んで和やかに交流をしたほか、同時に介護用品の紹介や家族の健康相談会も開催し好評を得ている。また、アンケート調査も実施して家族の意見や要望を聞いて運営に反映するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会議では、管理職と職員の意見交換を行っている。随時、意見のある職員の意見や提案を聞き対応している。 (外部評価) 毎月の職員会で職員は意見を出し合える環境づくりをしている。事業所への要望や悩み相談については、管理者が個別に相談に応じている。解決が難しい場合には管理者から施設長に相談し、対応している。定期的にユニット間で職員が異動し、利用者全員を把握できるように努めており、職員間の協力体制もできてきている。新入職員は分からないことがある場合には、日常的に先輩職員に聞くことができています。また、複合施設には感染対策予防委員会や給食委員会などがあり、職員は各委員会で話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人としては、人事考課制度を取り入れているが、まだ開設して1年も経っておらず、現状では人事考課制度を取り入れていない。資格取得後は、資格手当を支給している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会東予地区の研修会に参加している。毎月、職員が交代で参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内GH交流会を設立し、管理者・職員が参加している。また、相互研修により、互いの施設を知り、情報交換を行い、日々の業務に生かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの生活を継続して施設生活が送れるように、本人の生活ぶりや嗜好などを把握し、入所後の不安を取り除けるように対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の思いを理解した上で、家族の意見や立場を受け止め、審判的にならないように配慮し、家族の気持ちを受け止めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み者の状態によっては、GHが適切でないと思われた場合は、他のサービスも視野に入れ、必要によっては他のサービスを紹介する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作りや外食を職員も一緒に行い、空間を共有することで連帯感を持つ。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が面会しやすい雰囲気作りに努めている。家族がユニット内で溶け込み、くつろぎの時間を過ごされている。毎月おたよりにて遠方の家族にも、日々の生活ぶりを知って頂き、身近に感じて頂けるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前行かれたことのある思い出の神社にお連れし、落ち着いた時間を過ごされる。しかし、開設後7ヶ月程度である為、思い出深い場所に行くことが逆効果にならないか思案している。知人や家族の面会は積極的に受け入れている。遠方などで面会に度々来れないご家族とは電話でやり取りして頂いている。 (外部評価) 毎月職員は利用者の日々の様子を便りに書いて家族に送付しており、遠方の家族にも喜ばれている。入居当初から帰宅願望のある利用者には、思い出深い神社に付き添ってお参りしたり、家族に来てもらったりすることで、落ち着きを取り戻している。入居前一人暮らしをしていた利用者には、近所の人が気にかけて訪れてくれ利用者に喜ばれている。職員は利用者が馴染みの関係をなるべく維持することで、穏やかに過ごせるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 席の配慮や不穏時には、職員が間に入り、必要に応じて距離をとるなどし、人間関係悪化防止に努めている。 時間の経過に伴い、互いに受け止め、トラブルのない穏やかな生活が送れている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後、関連施設に入所した方1名。契約終了後も、ご家族と連絡を取り合いながら、病院から関連施設へ入所されるお手伝いを行う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思の訴えが難しいものに対して、表情や態度などから心理を読み取り、ご利用者様の気持ちを把握するように努めている。 (外部評価) 職員は利用者との会話に耳を傾け、話しをよく聴くよう心がけている。テレビの前にあるソファに職員が隣り合わせて腰を掛けてゆっくり話を聞いたり、夜勤帯にスタッフルームを訪れた利用者の話を聞いたりしている。思いや意向を伝えることが困難な利用者には、家族から情報を聞いたり表情や様子を見て思いをくみ取るよう努めている。また、利用者の不安な顔や態度などを察知した場合には、気分転換を図るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前面接時、センター方式を利用し、ご利用者様の生活歴や環境などを把握している。入居後も、ご利用者様やご家族様とのやり取りの中から情報を取り入れている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会でカンファレンスを実施し、個人個人の生活形態を話し合い、ご利用者様の有する能力について情報交換している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日常生活の中で、ご利用者様の思いや意見をお聞きしたり、様子や表情から読み取っている。ご家族様の面会や電話のやり取りなどから思いや意見を把握している。 毎月、カンファレンスを持ち、一人一人に応じた介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者や家族の意向を確認した上で、利用者毎の担当職員と計画作成担当者が相談しながら介護計画を作成している。毎月ユニット毎にケースカンファレンスを行い、職員が話し合いをしている。通常は6か月に1回介護計画を更新しているほか、状態の変化がある場合には、その都度見直しをしている。更新時は家族の面会に合わせてサービス担当者会議を実施し、家族の意見を取り入れ修正するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別ケースに記録しているが、実施した内容にとどまっていることが多い。その為、月1回の職員会で個人の情報を共有して介護計画につなげている。普段と違うことがあれば、ミーティングノートを活用し、情報の共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 協力機関の病院受診は、職員が付き添い介助している。併設しているデイサービスと合同でレクリエーションを行うこともある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地区の秋祭りでは、太鼓台が来て、地域の方々とふれあいを持つことが出来た。運営推進会議では、推進メンバーとご利用者様が一緒に体操を行った。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関がかかりつけ医のご利用者様が多い。しかし、 (眼科・耳鼻科など) ご利用者様ご希望される病院には継 続して受診して頂いている。 (外部評価) 系列法人が病院を経営しているため医療連携体制が整ってお り、入所時に希望して協力医をかかりつけ医にする利用者が 多い。眼科や耳鼻科などの専門医の受診は、家族の協力を得 ている。月2回訪問診療があり、日常的な健康管理をするほ か、急変時には事業所の看護師と医療連携が取れ、利用者や 家族は安心感がある。また、歯科医の往診もあり、口腔ケア の指導や治療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 2名の看護師が勤務している。日々、気づいたことや変化が あれば、ただちに看護師に伝え相談している。また、 看護師より診察内容や病状から介護職員へ適切に指示が出さ れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に施設での状態や認知面について詳しく情報提供をし ている。定期的に病院に行き、状態把握に努めている。病院 の地域連携室と連携を取りながら家族も含め、 カンファレンスを行い、早期退院に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関する指針を、入居時に説明し理解を得ている。現 状では、その様なケースはない。 (外部評価) 「ターミナルケア指針」を作成して、事業所として対応でき る内容を利用者や家族に説明して意向を確認しているが、今 のところ考えていないと答える家族が多い。看取りを実施し ていく予定であるが、事業所は開設して1年目のため対象の 利用者はいない。今後、看取りが必要となった場合には協力 医と医療連携を図りながら、事業所の力量も考慮しながら支 援に取り組む予定である。	介護経験の浅い職員が多く、看取りへの漠然としたイ メージを持っている。法人内の他の事業所では看取り 経験があるため、職員の体験交流を図りながら、知識 の向上や不安の解消など職員への具体的な教育をして いくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し、周知している。施設内研修で消防職員による救急救命についての講習を受けた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は施設全体で年2回実施している。夜間想定で1回実施している。 (外部評価) 複合施設が合同で年2回消防署の指導のもと、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施する予定である。開設1年目のため、初めての訓練では夜間を想定して実際に非常ベルを鳴らした避難誘導を行った。消防署から初めての訓練にしては職員の動きが良かったとの評価を受けている。複合施設のため夜間帯にも相互の協力を得られる職員はいるが、動揺する利用者への対応も考え、管理者は今後は広く協力者を作りたいと考えている。地区の消防団員にも呼びかけ、訓練に参加してもらえるよう働きかける予定である。また、事業所独自で食料などの備蓄品を用意している。	夜間などの災害発生時には、利用者の避難誘導に一人でも多くの協力者が駆けつけることが被害の防止に繋がるため、管理者は緊急時に備え広く協力者を求めたいと考えている。今後は、家族や地域住民などと一緒に避難訓練を実施し協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の尊厳やプライバシーを配慮した声かけを心がけている。 (外部評価) 職員は丁寧な声かけをするよう心がけ、利用者の自尊心や恥辱心に配慮した支援に努めている。トイレ誘導時は、周囲に聞こえないよう耳元で声をかけをしている。入浴時や更衣時には、利用者のプライバシーを確保してケアをするよう気をつけている。また、利用者と呼ぶ時は、名字にさんを付けて呼ぶ取り決めをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思決定が困難な時は、選択できるような声かけをしたり、表情や動作等から推察したりしている。押し付けにならないように声かけに留意し、無理強いしないようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 施設としての1日の流れはあるが、個々の体調や意向を尊重し、一人一人のペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の介助のもと馴染みの美容室に出向き、カラーリングしている。月1回の訪問理容師により、ご利用者様の希望に添ったヘアースタイルにしている。手持ちのクリームや化粧水を使い美容に心がけている。入浴後などの髪の毛の分け方やヘアークリップの留め方などご利用者様の好みを取り入れている。衣装選びは、なるべく自分でして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 開設当初で十分に体制も整っていない為、委託業者による食事提供を実施している。行事食などは、職員、ご利用者様と共に作り召し上がり楽しまれている。 (外部評価) 複合施設の1階の厨房で、委託業者がおかずなどの調理をしている。ご飯は各ユニットで炊飯している。おやつは利用者と職員が協力して、なるべく手作りするよう心がけており、行事食や誕生日のケーキは利用者と一緒に手作りしている。利用者と職員は一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気です。食事をしていく。嚥下の難しい利用者には、食形態の工夫をして食べやすいよう工夫している。敷地内の空き地に畑を造る計画があり、栽培した野菜などの食材を使い、ユニット毎に調理することも検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立があるので、バランスは取れていると思われる。カロリー制限のある方は、ご飯を計算している。1日の摂取量をチェックシートに記入している。ご利用者様の状態に合わせ、お粥や刻み、とろみをつけるなど工夫している。水分摂取の訴えのない方は、定時に飲水して頂いている。入浴後等に、必要に応じてハイポトニック飲料などを飲んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の診察を受け、口腔ケアの指導を受ける。毎食後、歯磨きの声かけを行い、出来ない方には、介助している。出来る方にも仕上げ磨きを実施している。週1回、歯ブラシとコップの消毒、義歯の洗浄を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握し、長時間の訴えがない場合でも、職員が声かけし、トイレで失敗なく排泄できるように支援している。個々の排泄リズムを理解し、トイレの誘導・声かけを行っている。 (外部評価) 日中には利用者は布パンツを使用し、誘導してトイレで排泄できるよう支援している。失敗することが無いよう定期的にトイレに誘導している。入院中はオムツを使用していた利用者も体調が回復して、今では自力でトイレに行けるようになった事例もある。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、自力で排泄できるよう支援している。また、便秘予防のため繊維質のものをおやつに取り入れ、スムーズに排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳酸菌や食物繊維を含むおやつを出来るだけ提供し、なるべく薬に頼らないように努力している。水分補給や体操、散歩などの運動や腹部マッサージなどを実施している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴を実施している。体調や入浴拒否のある方には、曜日を変更して対応している。お湯の温度や浴槽に浸かる時間などは、ご利用者様の希望を取り入れるように努力している。 (外部評価) 週3回入浴ができるよう支援をしている。浴室には特殊浴槽が設置され、浴槽をまたがず入浴ができる構造となっており、安心安全に入浴することができる。湯は一人ずつ入れ替えるため、利用者の好む温度や時間帯に入浴することができる。また、入浴が苦手な利用者には毎日声かけをして、入りたい日に入ってもらおうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご利用者様個々の生活習慣を大切にし、ご利用者様の意思を確認し、ベッドへの誘導を行っている。夕方より不穏になられる方には、付き添い、寄り添って不安を取り除き安心して眠れるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診により、薬の変更があれば、申し送りノートに記載し、周知している。作用や副作用などは、薬局からの薬剤情報を健康チェックファイルに個々に綴じている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意なことや楽しみを把握し、その人に応じた支援を行っている。歌を好む方は、職員と共に歌ったり、テレビのスポーツ観戦を一緒に楽しんでいる。また、裁縫の得意な方には、牛乳パックを使った椅子を一緒に作っている。他にも編み物などを一緒に楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設周辺の散歩は、ご利用者様のご希望に応じて適宜実施している。季節感を感じられるような場所に出向いたりご利用者様のご要望に応じて外食も行っている。ご家族様のご協力のもと、墓参りにも出掛けている。 (外部評価) 天気の良い日には広い敷地内や近くの寺院の境内まで散歩している。バラや紫陽花など季節の花をドライブがてら見に行ったり、ショッピングモールに買い物に出かけたりしている。3～4人の利用者でカラオケボックスに出かけ、カラオケを楽しんでいる。また、系列法人の病院で催されるコンサート鑑賞に出かけたり、屋上にあるレストランで外食を楽しむこともある。職員は車いすも使用できる福祉車輛を活用し、利用者全員で外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に、管理者が小口の預かり金を管理している。毎月、預かり金の出納表をご家族に送付し報告している。小額の手持ち金を管理している方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 送って来て頂いた手紙などは、各居室に飾らせて頂いている。家族等との電話は職員が取り次ぎ、ご利用者様とやり取りがしやすい環境を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花瓶に季節の花などをを挿し、リビングに置いている。季節感を感じられるような壁面を一緒に作成し飾っている。窓から外の風景を眺められるように考慮し、ソファを配置している。 (外部評価) 共用スペースにはオープンキッチンがあり、炊きたてのご飯の匂いが漂ってくる。テーブル席やソファ席など、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。また、食卓には職員が持参した季節の花が飾られ、壁には行事の写真や利用者と職員が一緒に作成した作品が美しく飾りつけられ、利用者や来訪者の目を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースには、くつろげる場所を2箇所設け、状況に応じて居場所の変更が出来るような環境を整えている。また、居室でゆっくり過ごされたい時は、居室でくつろいで頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族写真や人形、家族の形見の品などを部屋に置き、家庭と同様の空間作りに努めている。 (外部評価) 窓は大きくどの居室からも見晴らしが良く外の景色を眺めることができ、居室にいながら季節を感じることができる。居室にはエアコン、電動ベッド、チェスト、洗面台が備え付けられている。自宅から位牌や可愛がっていた抱き人形、賞状や家族写真を飾っている利用者があるなど、一人ひとりに合わせ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室がわかりやすいように名前を表示したり、目印をつけている。夜間は明るさに留意している。	